コサナエ　*Trigomphus melampus* (Selys)

【選定理由】

旧市町村単位の絶滅率は50%、現存数は 1 であり、絶滅危惧ⅠＢ類に相当する。

♂. 東栄町月坂甫, 2000 年 6 月 2 日, 安藤 尚 撮影

【形　態】

体色は黒地に黄色の条斑を持つ小型のサナエトンボである。同属他種とは翅胸前面に太いＬ字形斑のほか、その外側に細い前肩条と小さい黄色点があること、また♂では尾部付属器の背面に突起がないことで区別できる。

和名は小さなサナエという意味である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東三河の山間部にある 2 町でのみ記録されている。

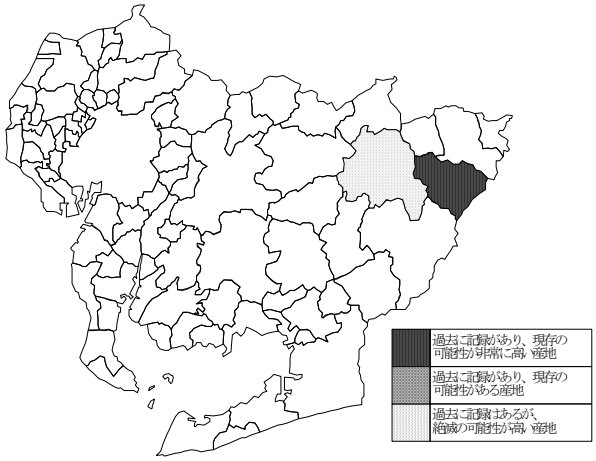
【国内の分布】

北海道から本州西部にかけて分布し、離島では佐渡島で記録されている。ただし四国からは未記録である。

【世界の分布】

日本特産種である。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

成熟成虫は、比較的古い池沼で見られる。未熟成虫は、ほとんど水域を離れないようである。幼虫は、それらの滞水域や細流の泥底に浅く潜っている。

成虫は 5 月中旬頃より羽化し、5 月下旬から 6 月にかけて生殖行動を行なう。飼育や野外での観察から、成虫になるまで 2 年を要すると考えられる。

【現在の生息状況／減少の要因】

2019 年に東栄町で現存するのを確認している。同町では当初林縁の薄暗い小さな池から幼虫が採集されたが、その後少し離れた比較的開放的な池沼から多くの個体が確認された。その開放的な池は、かつては複数存在したが、現在は 1 つの池のみとなっている。同池は改修がなされたが、現在も比較的多くの個体が生息している。設楽町では 1989 年に記録されたが、水底を攪乱して生息環境を悪化させるコイが放たれており、現存の可能性は低い。

【保全上の留意点】

1）発生地である池の保全
2）幼虫／成虫を捕食する可能性のある外来魚（コイも含む）の移入防止

【特記事項】

本種は東日本には広く分布するが、西日本では日本海側を中心にやや限られた分布をする。愛知県はその分布の周縁部にあたるため、東三河山間部の限られた場所にのみ見られる。

同属のオグマサナエやフタスジサナエが地史的に新しい地域にある水域に生息しているのに対し、本種は主に地史的に古い地域に生息しており、両者はマクロ的にはっきりと棲み分けている。このことから、本種は日本列島における先住者と考えられる。

（吉田雅澄）